

編集後記

盛夏に、玉稿をお寄せ下さいまして心からお礼申し上げます。

オイル・ショック、それにつづくインフレの加速、門外漢の私にも、資源問題の深刻さがわかります。それにしても今から100年も前に英国のスタンレー・ジェボンスの書き記した内容が頭から離れません。なんと日本の現状と似ているのでしょうか。「世界五大州は現実には、自から進んで吾が朝貢者である。北米とロシアの平野は小麦畑、シカゴとオデッサは穀物庫、カナダとバルテック沿岸諸国は森林。オーストラリアは羊の産地、アメリカは牛群を養う。ペルーは銀を送り、カリフォルニアとオーストラリアは金を送る。支那人は茶を栽培し、東印度諸島はコーヒーと砂糖と香料を、フランスとスペインはブドウ畑、地中海は果樹園……」ヴィクトリア朝の英国はまさに産業革命の成功に酔っていた。恐らくマルクスなら、そして安い労働力はアイルランドからと、記したでしょう。(S・N生)

流通経済論集 Vol. 9, No. 2 (通巻第31号)

昭和49年12月5日発行

非売品

編集兼発行所

製作所

流通経済大学学術研究会
茨城県竜ヶ崎市長平畑120番地
電話 竜ヶ崎 (02976-2) 3251 (代表)
財団法人 東京大学出版会
東京都文京区本郷7丁目3番地の1 東大構内
電話 東京 (03-811) 4281